

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

幸せは

Public relations
OZU TOWN

cloZU-up
OZU-jin
クローズアップ 大津人

ピザをこしらえる「ピザハウス」も、ピザを焼く窯もすべて手作り。細部にこだわりが見られる。

目指すは、
エコなまちおこし。

むらやまかすよし
村山和義さん (陣内)

広報おおづ 2012 3

発行・編集 ■大津町・企画課
〒869-1292 熊本県東部大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

210 印刷 ■ホーテ印刷株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と大豆インクを使用しています。

UD FONT
風やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

Proud!
東日本大震災の復興を支援しよう
Japan

3
MARCH 2012

ほらそいじに……

今月のみどころ

3月25日は熊本県知事選挙

熊本県広報協会合同特集
愛する人を守る二つの言葉

クローズアップ大津人
村山和義さん

「熊本県地球温暖化防止活動推進員」。県内全域で100人以上の推進員が、県から委嘱され、地球温暖化を防止するためにさまざまな活動をしている。その一人である村山和義さんは、自ら手を挙げて推進員になった。そこには村山さんの幼少から今までの強い思いが込められていた。

大学時代、造園学を学んだ。卒業後は、造園の知識を生かして、全国で公園をつくる仕事をやってきた。ある時は沖縄で首里城の復元作業を。ある時は、熊本で大津町総合体育館の設計を。北は北海道から、南は沖縄まで、40年間で13回も引越した。

定年後、大津町に移り住んだ。この町のすばらしさを感じる「自然です」ときっぱり。「この町にはすごい可能性が残されていると思います。これらを掘り起こしていくのが私の役目です」と自信を持って笑う。

子どもの頃、夜店で買った草花やサボテンを育てていた。家の庭に石を敷き詰めて、池を作っていた。自然が好きで少年だった。それが、村山さんが今の活動を行っている原点なのかもしれない。「自分が良いと思ったものを未来に残していきたい」。地球温暖化防止活動推進員に応募したのも、その思いがあるからだろう。

「常にアンテナを張って、視点を変えながら、エコな生活を、エコなまちおこしをやりたいです」と話す村山さん。その情熱と飽くなき向上心は、どこから生まれるのだろう。家に掲げてあった相田みつをの詩「一生勉強 一生青春」。この詩と、村山さんの姿が重なって見えた。

ついでの声

▼3回目の年男を終えても、自分というものがいまだに分かりませんでした。子どもの頃に見ていた36歳はもっと「大人」だった気がするんですが……メディアの発達と情報端末の進化で、私たちは多くの情報を手に入れることができるようになりました。一方、世の中に情報はあふれ、情報を取捨選択することが必要になっていきます▼情報は人を成長させてくれるもの。情報が多いため、人は成長を求めらるでしょう。取材で会う皆さんは、年齢など関係なく、成長を望んでいました▼情報過多の時代は、情報も埋もれがちになります。情報は「情を持って報せる」と書きます。これからも広報おおづは、情のあるお知らせを提供していきたいと思っています。(社口)